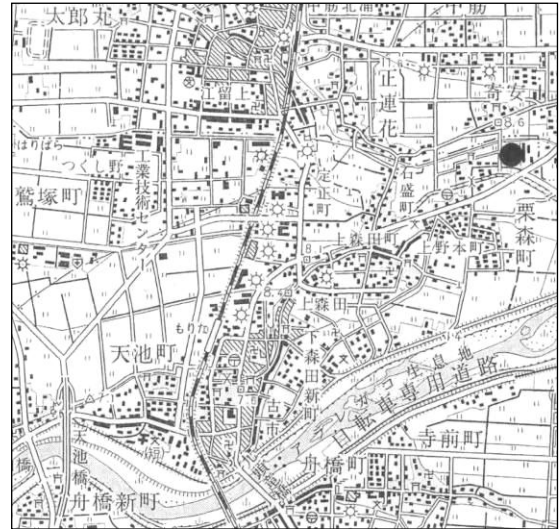


よりやすいせき  
9. 寄安遺跡

所在地：福井市栗森町地係  
調査原因：森田北東部土地区画整理事業  
調査期間：平成22年11月22日  
～平成23年3月30日  
調査主体：福井市文化財保護センター  
調査面積：約1,421 m<sup>2</sup>  
時代：縄文・弥生・古墳時代



位置図 (S = 1/50,000)

**調査の概要** 寄安遺跡は、福井市北部の森田地区に所在しています。立地は、九頭竜川右岸、福井平野のほぼ中央に位置します。平成20年度の調査で、弥生時代終末～古墳時代後期後半の溝5条と鎌倉時代の掘立柱建物2棟・区画溝2条が見つかっています。

**平成22年度調査区** 調査区は、新幹線軌道用地を挟んだ側道用地です。竪穴建物ないし平地式建物とみられる建物2棟・柱穴様ピット34基・土坑3基・溝5条・方形落ち込み遺構1基・粘土採掘坑の可能性のある不定形落ち込み遺構1基・沼沢地跡が見つかっています。

縄文時代の遺構は見つからず、自然堆積中から土器片と打製石斧1点が出土しました。

弥生時代終末期の遺構は、竪穴建物ないし平地式建物とみられる建物2棟・柱穴様ピット34基・土坑1～3基・溝2～5条・粘土採掘坑と考えられる落ち込みがあります。

溝4は方形に巡り、出土した土器に精製土器が含まれることから、辺長6m前後の方形墓の可能性が考えられます。土坑1は井戸の可能性が高い平面円形の土坑で、ミニチュアの「く」の字状口縁台付甕が完形品で置かれ、土坑を埋めた際の祭祀跡と考えられます。

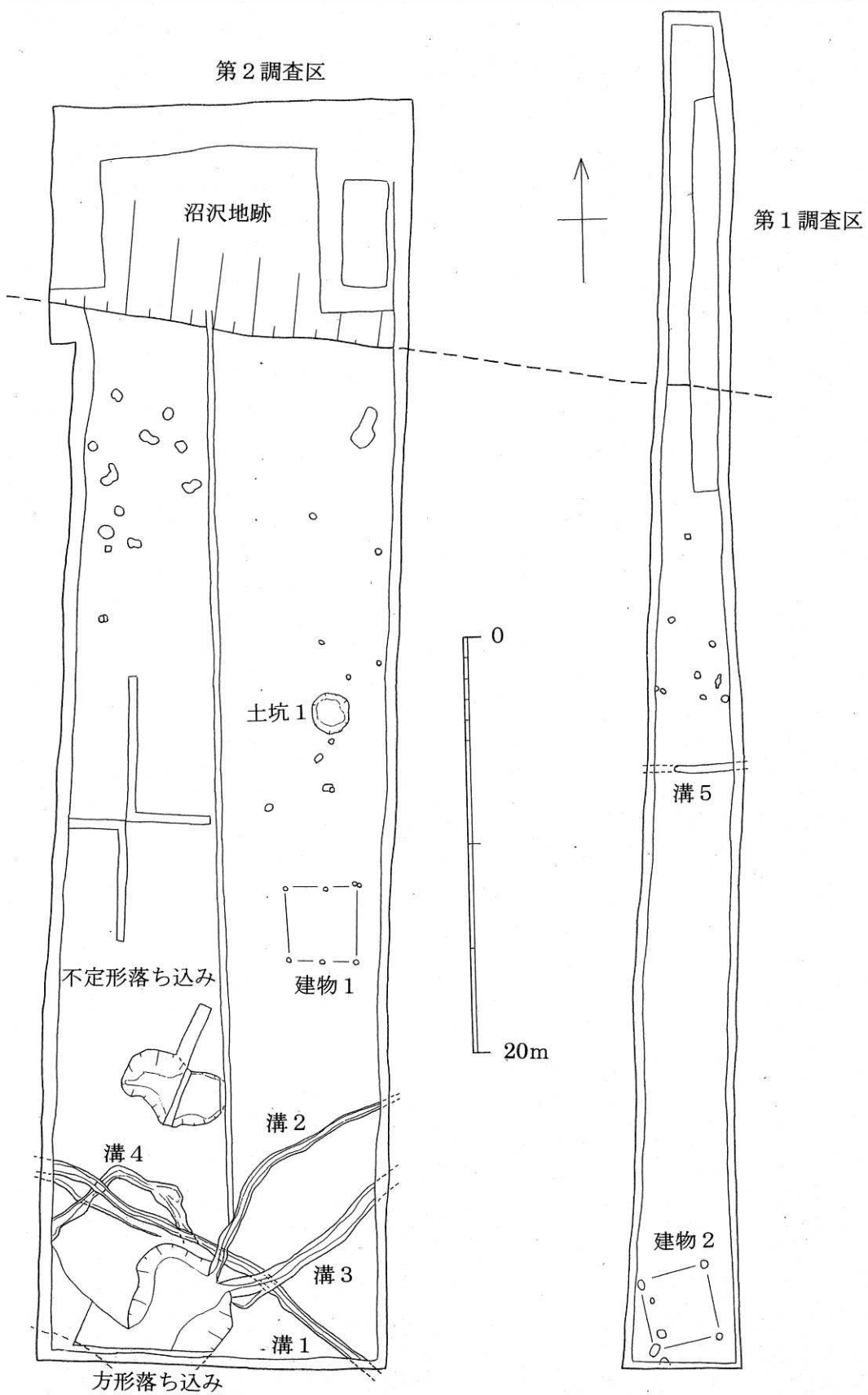
古墳時代前期の遺物は、方形落ち込み遺構と沼沢地跡から、弥生時代終末期の土器と混在して出土しました。ここでは廃棄された状況で遺物が出土し、とくに鑄造炉の炉壁とみられる焼土の破片が出土したことで、寄安遺跡で青銅製品を製作していた可能性が考えられるようになりました。(古川 登)



平成22年度調査区全景 (南から)



溝2 遺物出土状況 (上から)



平成22年度 寄安遺跡発掘調査区実測図